

阿寒湖マリモ保護年表

年	で き ご と
1897(明30)	川上瀧彌が阿寒湖シュリコマベツ湾でマリモを採集
1898(明31)	川上瀧彌が植物学雑誌で採集記録と和名(毬藻)を発表
1919(大8)	吉井義次(史蹟名勝天然記念物調査委員)が調査
"	飽別発電所が完成、送電を開始する
1921(大10)	天然記念物に指定(3月3日)
1922(大11)	西村眞琴が調査
"	吉井義次が調査を行い水力発電に伴う湖水面低下を平均水位以下3尺を限度とするよう上申
1923(大12)	保護を目的としてマリモを他湖へ移植
1924(大13)	電力利用による湖水面低下や木材の鉄砲流しによるマリモ被害が問題視される
1937(昭12)	三好学が調査を行い遊覧船の投錨等による群落の攪乱を指摘
1941(昭16)	このころまでにシュリコマベツのマリモが全滅
1950(昭25)	春季の水位低下がマリモに甚大な被害を及ぼしている事実が判明、館脇操らが調査(1952年まで)
"	地元住民による「マリモ愛護会」(現在の「特別天然記念物『阿寒湖のマリモ』保護会」の前身)が発足するとともに、第1回マリモ祭りが開催される
1952(昭27)	特別天然記念物に指定(3月29日)
1953(昭28)	然別第1発電所の完成に伴い、水力発電による阿寒湖の春季水位低下に歯止めがかかる
1956(昭31)	吉井義次が調査を行い、1919・1922年の調査時に比較して著しいマリモの減少を確認
1957(昭32)	前年チュウルイに監視舎を設置しマリモ保護監視人の常駐を開始
"	山田幸男らマリモの褐変について調査
"	チュウルイ河口付近に打ち上げられたマリモの一部をシュリコマベツへ移植
1958(昭33)	阿寒町・道教委による湧水期における生息調査(1961年まで)
"	北大・道教委・阿寒町等によるマリモ分布調査(1960年まで)
"	チュウルイ河口付近に大量に打ち上げ(5月)
"	チュウルイ湖岸に幅7m長さ100mにわたりヨシを移植
"	マリモ打ち上げ防止網を設置(水深1m長さ180m)
1961(昭36)	観光船のマリモ生息地への乗り入れを自主規制
"	チュウルイ島にマリモ観覧施設を設置
1962(昭37)	チュウルイ湖岸にマリモ打ち上げ防止堤を設置(高さ1.3m幅2.6m長さ196m)
1963(昭38)	道教委・阿寒町による生息調査
1965(昭40)	台風によりチュウルイ湖岸に大量に打ち上げ
"	山田幸男による打ち上げの実態調査
1972(昭47)	阿寒町教委の委託により黒木宗尚らが生息調査(1975年まで)
1973(昭48)	強い北風により温泉街湖岸に多数打ち上げられ(5月)回収後チュウルイに返還
1978(昭53)	チュウルイ島マリモ展示観察センターが竣工し、一般公開を開始

〃	異常繁殖したキネタンペ湾のヨシを除去
〃	強風のためチュウルイ湖岸に約 1 万個が打ち上げ
1984(昭 59)	温泉街湖底に堆積した汚泥の浚渫による除去を開始
1985(昭 60)	阿寒町教委の委託により黒木宗尚らが生息調査(1986 年まで)
1986(昭 61)	阿寒湖畔公共下水道の供用を開始
1987(昭 62)	南南西の風のためチュウルイ湖岸に打ち上げ(大型のもの約 600 個)
1988(昭 63)	阿寒町教委の委託によりマリモ調査研究会(吉田忠生代表)が定期調査(1991 年まで)
1989(平 1)	チュウルイ・キネタンペ両生育地の定期的な水質検査(1997 年まで)
1990(平 2)	温泉街・ボッケ周辺湖岸に打ち上げ(5 月)
1991(平 3)	阿寒町教委にマリモ専門学芸員を配置
〃	マリモ祭りの中で一般市民を対象としたマリモ生息地見学会を開催(現在まで毎年実施)
1994(平 6)	早春にマリモが氷により圧迫されている事実が判明し、阿寒町教委が調査
〃	地元小学生を対象とした生息地見学会を開催(現在まで毎年実施)
1995(平 7)	チュウルイ湖岸にマリモが大量に打ち上げ(11 月)、チュウルイ川の流れを利用して沖合いに移動
〃	チュウルイ島マリモ展示観察センターを全面改修
〃	阿寒町教委が生育状況・生育環境総合調査(1997 年まで)
1996(平 8)	特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」保護会・阿寒湖畔パークボランティアの会・阿寒マリモ自然誌研究会の 3 団体による「マリモ 21 世紀プロジェクト」が発足
1997(平 9)	総合調査最終年度にあたり、チュウルイ・キネタンペ両生育地の詳細な調査を実施(のべ千名を超えるボランティアが参加)
〃	マリモ人工栽培技術の特許出願(北海道電力との共同研究)
1998(平 10)	マリモ発見命名 100 周年記念事業
1999(平 11)	国際共同研究プロジェクト(欧州調査の実施および国際シンポジウムの開催)始まる
2002(平 14)	阿寒湖畔エコミュージアムセンターにマリモ研究室開設
〃	直径 30 cm を越える巨大なマリモの生育が多数確認されるも、10 月の台風で大半が打ち上げられる(結氷前に返還作業を実施)
2005(平 17)	マリモの生育環境調査が環境省の事業(国立公園の管理手法に関する検討調査)に組み入れられる
〃	マリモの浮沈現象が初めて確認される
〃	阿寒湖がラムサール条約に登録される
〃	阿寒町・音別町・旧釧路市が合併し、新釧路市が誕生
〃	NPO 阿寒観光協会まちづくり推進機構設立
2006(平 18)	公開座談会「阿寒湖の昔を学び、未来を考える」開催
〃	マリモ盗採事件発生
2007(平 19)	10 月の低気圧で大型のマリモが打ち上げられ、12 月に返還作業